

# 日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1

TEL 03-3291-5035

## 21世紀の教界は

伝道団体連絡協議会役員 姫井雅夫

酒鬼薔薇聖斗事件以来、日本各地で若者による残酷で、奇妙な事件が相次いでいる。まさに世紀末だと言われれば、そうかなと肯くいてしまいたくなる。この状況がますますエスカレートしていくとすれば、恐ろしい気がする。テレビやビデオの影響で、彼らは簡単に「自分もやってみよう」と思うらしい。それが日本全国に広がっていくのも恐ろしい。

大人の世界も同様で、悪質な事件が後を絶たない。政財界の大物もその例外ではない。マタイ二四章には、世紀末ということではなく、終末についての預言がなされている。そこには、偽キリストの出現、戦争のうわさと実際の戦争、飢饉地震、迫害、人々の愛が冷たくなるといったことが記されている。これらに先駆けて、道徳、倫理の乱れ、いのちの尊厳さ・尊さの軽視、欲望の充足のためならなんでもするとする無軌道さが目立ってきているように見える。

これは日本だけのことではなく、世界を被っている傾向のようである。世紀末であるとともに、終末を迎えつつあるということだろうか。

### キリスト教界の動き

今年の夏、アメリカに行く機会が与えられた。日本の霊界

の動きを知ったのか一冊の本を紹介してくれた。「にせリバイバル」と言う本の題名だった。もちろんこの本には、アメリカの状況が記されている。日本にもこの傾向が見られるのではないかと気遣って、参考にして欲しいということだったのだろう。ケネス・ヘイガンやベニー・ヒムなど実名を挙げて批判している。

世界中でこの現象は見られるらしい。ある団体から送られてくる「祈禱課題」に、世界中で福音派の動きは鈍っているが、ペンテコステ派の動きはいやしやしるしを伴って顕著である、と毎月のように書かれている。

### 来年、一月に予定している研修会

さて、世紀の転換期をまもなく迎えようとしている今、世界と日本をしっかりと見据えながら、教会と伝道団体は手を取り合って「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい」と勧められている聖書の言葉に従順でありたいと思う。企業家はいつも先を見ているが、教会人は後手に回っている気がする。そこで、「企業家が見る世紀の転換期」というテーマで研修会を開こうとしている。先述したような世情、それにキリスト教界にも懸念をもたらしている状況があることを心に留めながら、これからの宣教を祈り、また宣教に携わりたいと思う。キリストの再臨と御国を思って、パウロはおごそかに命じた、「みことばを宣べ伝えなさい」と。一般的に見て、霊的なことに心を用いる教会と宣教方策に力を入れている伝道団体とが健全にパートナーシップを発揮することが出来たらと願わされる。

# キリスト降誕二〇〇〇年の動き

## すべての人に福音を

総動員伝道の運営委員長、小助川次雄師から提案され、今は日本中で検討されるようになってきた「キリスト降誕二〇〇〇年を画期的なあかしの年に」の運動が、次第に具体的なものになってきました。

ここにいたるまでに、日本福音同盟、伝道団体



説明する小助川師

連絡協議会などが共に協議に加わってくださり、組織や活動の検討が進められてきました。

この運動の理念は、「二〇〇〇年はA.D.、すなわちアノ・ドミニ（主の年）である。この年は、主イエス・キリストの降誕二〇〇〇年の感謝すべき年であり、同時に世紀変わりとあいまって画期的な年である。キリスト教会こそそれにふさわしくその年を迎え、主に心からの感謝を捧げるとともに、聖書信仰に立つ教会とこれに仕える伝道団体の協力によって、すべての人にこの事実を知らせ、キリストによる和解の福音を証し、主の栄光を拝したい」です。

この理念に基づいて四つのことを実施したいと願っています。その一つは、全国各地でキリスト降誕の祝賀行事や記念行事を企画し、開催していただきます。二つ目は日本国民に二〇〇〇年の意味を知らせ、福音を伝える企画を行います。三番目はこの運動を通して教会協力の実を結ぶことを期待します。四つ目は参加する各地の教会の成長と建て上げに寄与する事を期待します。

以上のことを実施するにあたって、これから実行委員会が協議するとともに、全国各地で、その地域で取り組める活動を企画し、開催する準備をしていただきます。伝道大会やクリスマス・マッセにキャンドル・ライト・サービス、コンサート伝道を合

同で行うなどを検討していただきます。

全国的にはポスターやステッカーなどを作成して家や車に貼っていただくというのはどうでしょうか。若い方々によってすばらしい企画が生まれてくることを期待しています。全国的に展開できる企画が欲しいと思っています。異教にがんじがらめになっている日本国民に食い込んで行くチャンスになればと祈っています。

二〇〇〇年には日本福音同盟が主体となる日本伝道会議実行委員会の主催で「伝道会議」が沖縄で開催されます。そのためにも各地でフォーラムを開き、そこで語られたことが沖縄の会議に持ち込まれ、協議されようとしています。この動きと降誕二〇〇〇年の動きと競合しないように配慮して進めて行く為に、伝道会議実行委員会のもとに降誕二〇〇〇年を実行委員会が位置づけられることとなります。

現在、ロゴ・マークやテーマ・メッセージを公募しています。関心のある方はぜひご応募下さい。カトリック教会でもこの運動が進められており、紀元二〇〇〇年大聖年と呼んでいます。九七年はイエス・キリストの年、九八年は聖霊の年、九九年は父である神の年と定め、準備を進めて行く所です。

世界の各地でも二〇〇〇年に向けていろいろな計画があるようですが、大半は二〇〇〇年までにいくつの教会を生み出すかという目標を設定しています。世界の各国は二〇〇〇年がキリスト降誕から二〇〇〇年目であることは承知のことですが、日本ではそのことを知らせることが一番の目的になります。新聞やテレビを用いて大々的なキャン

ペーンをはることは出来ないものでしょうか。となると財政的にもかなりの必要が考えられます。全国からのご支援をいただき、すすめていかなければならないでしょう。

「すべての国々よ。主をほめたたえよ。すべての民よ。主をほめ歌え。その恵みは、私たちに大き

く、主のまことはとこしえに至る。ハレルヤ」

詩篇一一七

## 第11回伝団協フェスティバル

# 出ていって福音を宣べ伝える フェスティバルを目指し

### 開催主旨

過去十回は各団体の働きをクリスチャンにむけて紹介してきましたが、今回からフェスティバル

を伝道集会とすることで、直接、福音をその場で宣べ伝え、教会と共通目的を掲げることで、フェスティバルの開催を通して各団体への理解も深めていこうと考えました。

このようなことを背景として、今年のフェスティバルは、「伝団協が地域の教会に働きかけて」教会と伝団協が協力をして、「地域伝道を行う」と先にお知らせ致しましたが、その後の委員会にて、本年より教会と伝団協が協力をしてひとつのフェスティバルを開催するにはまだ無理（準備期間が足りない）、今年はまだ伝団協が主体でフェスティバル（伝道会形式）を行い、協力して地域伝道を行う土台を固める年とすることとなりました。

### 各団体の働きのPR方法

①はじめに（今回は埼玉地区ですが）まず伝道団体連絡協議会とはなにか。所属している各団体はどのような働きをしているのかをチラシの裏にのせ地域教会に配布する。紹介の内容は従来より判り易く簡単なものとし、全体像と個々のおおまかな働きがわかるものとする。配布物はPR誌のほか

かにフェスティバル開催のポスターやちらし等、教会やクリスチャンにむけて宣伝する。

### ②当日会場にて宣伝物を配布。

上記のようにPR方法は二通りありますが、①の対象はクリスチャンのみ、②の対象はクリスチャンと未信者になります。対象別にPR方法を代えることも良いかとおもいます。

### 催しもの

現在交渉中ですが、九月の第一週には確定し、お知らせ致します。また地元の市民クリスマスにも働きかけてイベントへの参加も要請中です。イベントの間にはショートメッセージ（十分位）も入れる予定です。会場は商業催事の登録となっておりますので、各団体での販売も可能です。現在決まっているのは、長崎殉教オラトリオ（グロリア・クワイヤー）、ひとり劇（西田正氏）、子ども合唱（坂戸・ザ・ウインズ）、ディケンズ・クリスマス・キャロラズなどです。

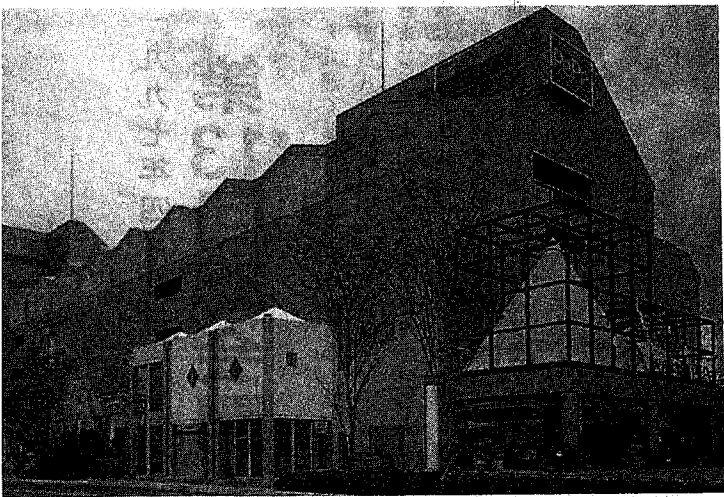
日時／一九九七年十一月八日（土）

十時～五時

場所／西武新宿線・本川越駅

駅ビル内ペペホール

\*詳しくは、フェスティバルの案内をごらんください。



会場のペペホール

一九九七年四月八日

# 第13回総会開く

大変遅くなって申し訳ありませんが、一九九七年四月八日にお茶の水クリスチャン・センターで開きました第十三回総会の報告をいたします。(議事録は各団体に送付済み)

第一部礼拝では羽鳥明会長が「二〇〇〇年を画期的な宣教年、証しの年という動きが緒につきました。伝道団体のメンバーにおいても二〇〇〇年を画期的な宣教年とするためにどうしたらいいか、各々考えていく必要があるのではないのでしょうか。主の民が一つとなって主に仕えようと主の栄光が現わされます。そういう年としていただきたいと願っています」とメッセージしました。

第二部では、以下のように報告と議事がなされた。一九九六年度の活動報告、会計報告、会計監査報告がなされ、各々承認された。一九九七年度活動計画案、予算案が説明され、承認されたが、フェスティバルについては、内容をもっと検討するようにとの意見があった。

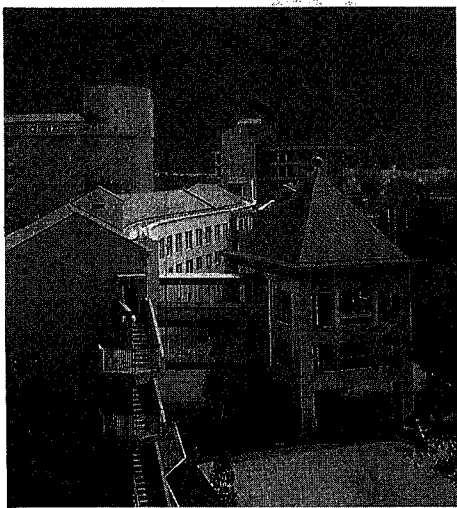
また、規約改正について、第十条「役員」に「常任役員」が置かれているが、常任役員の規定が無いが、現状は役員会ではなく、常任役員会が運営しているの、これを削除し、役員会が運営する形にしたいとの提案があった。協議の結果、以下のことがきまった。規約に「常任役員、常任役員会」を規定し、常任役員、常任役員会が役員

会を補佐していくという現状の形がいい。ただし役員会を規約通りに一年に一回以上開く。条文については、常任役員会に一任することが、出席者の三分の一以上の賛成により議決された。

また、片岡伸光師、柳沢清氏の辞任、それにもない、太平洋放送協会、新生宣教団から一名づつ常任役員を出していただくよう交渉することが決まった。

その他として会費未納団体についてどうするか話し合い、会長名でもう一度催促することになった。また積極的に伝道協の働きに加わっていただくように考えていただきたい、特に関西圏の団体と交わる必要があるのではないか、との意見があった。

三部懇談会では、フェスティバル委員会より、今までの伝道協を紹介するフェスティバルではなく、地域教会に協力して地域伝道を目指すことが説明された。



青少年総合センター

それに対して、「とてもいいと思う。地域教会と伝道協と五〇%、五〇%で行ったらいいのではないか」「伝道として行う、一般の人々をターゲットにして、本当のキリスト教を提示できるものをお願いしたい」など積極的な意見があった。

その他、来年九月の東京リバイバル・ミッションについて伝道協はどう対応するのかなど意見があった。

## 伝道協

# 一泊研修会決定

今年度の一泊研修会は、一九九八年一月二十六日、二十七日に決まりました。会場は去年と同じ国立オリンピック青少年総合センター(最終決定は施設の都合でもう少し先になります)です。テーマは「クリスチャン実業家が見る世紀転換期」(仮題)です。講師には、飯島廷浩氏、鈴木留蔵氏と交渉中。伝道協の研修会でなければ聞き出すことができない素晴らしいチャンスだと思います。費用も一泊三食で五千円程度ですので、とても参加しやすいと思います。また普段なかなかお会いする機会の少ない多くの伝道団体の兄弟姉妹の方々の良い交わりと学びの時とさせていただきます。いと願っていますので、ぜひご参加ください。後程詳しくご案内をさしあげます。

発行日 一九九七年九月三十日  
発行者 羽鳥 明  
編集者 鈴木 繁